

Day 1

簿記の基礎

いよいよ、今日から学習開始ですね。
今日は簿記の基本的なルールから
簿記のカナメ、仕訳までを学習します。

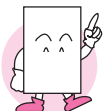


●そもそも「ぼき」とはなんだろう？

簿記の必要性

簿記とは？

^{ぼき}簿記は、帳簿記入の略だといわれています。つまり、帳簿をつけること、これが簿記なのです。ここで帳簿というのはノートのことだと思ってください。



簿記の種類はいろいろありますが、建設業で採用される簿記が建設業簿記ですね。

「ぼき」はなんのために必要か？

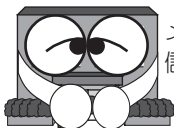
なぜ帳簿をつける必要があるのか、ここからが大切です。

企業はいろいろな活動をしています。モノを買ってきたり、売ったり、作ったり、電話代や給料を支払ったり…。このような活動を記録しておかないと、会社に現金や預金などがいくらあるのか（^{ざいせいじょうたい}財政状態といいます）、また会社がいくら使って、いくら儲けたか（^{けいえいせいせき}経営成績といいます）がわからなくなります。そのため帳簿をつける必要があるのです。

要点

簿記の目的

会社になにがいくらあるのか（財政状態）、会社がいくら儲けたか（経営成績）を示すこと



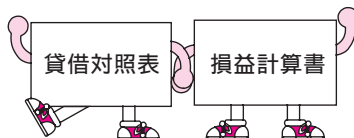
メモしておかなかったから
儲けがわからないよ～

また、財政状態を明らかにする表を^{たいしやくたいしょうひょう}貸借対照表、経営成績を明らかにする表を^{そんえきけいさんしょ}損益計算書といいます。



貸借対照表・・・財政状態を明らかにする表
損益計算書・・・経営成績を明らかにする表

財政状態を
明らかにします。



経営成績を
明らかにします。



1 簿記の目的はなに？

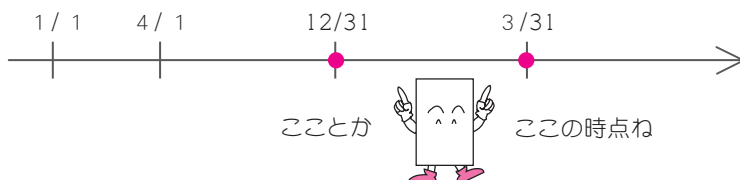
2 貸借対照表はなにを明らかにする表？

3 損益計算書はなにを明らかにする表？

貸借対照表を知る！

貸借対照表とは？

貸借対照表とは、一定時点で会社になにがいくらあるのか（財政状態）を明らかにする表をいいます。この一定時点のことを^{けっさんび}決算日といいます。



要点

決算日とは

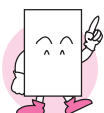
決算日…一定時点の締め日のこと

借方と貸方

貸借対照表は大きく、左側と右側に分かれます。そして、左側をかりかた（借方）、右側をかしかた（貸方）といいます。

【左側＝借方】 貸借対照表 【右側＝貸方】

かり かた ←	か しかた →
------------	------------



「かりかた」の「り」が左向きなので左、
「かしかた」の「し」が右向きなので右とおぼえましょう。

貸借対照表の右側（貸方）は負債と純資産（資本）

まずは貸借対照表の右側から見ていきましょう。

貸借対照表の右側（貸方）は、会社が使うお金をどのように集めてきたかを表します。

会社の資金調達のひとつに借入れがあります。



資金調達…お金を集めることです。




たとえば銀行からお金を借りてくると、「お金が手元に入ると同時に返さなければならない」という義務が生じます。この義務を^{ふさい}負債といいます。借金など増えるとイヤなものが負債です。

また、誰かから出資してもらって、この出資を元手に会社を運営することがあります。出資してもらったお金は返す必要はありません。この返す必要のないお金、つまり会社の元手となるものを^{じゅんしさん}純資産（資本）といいます。



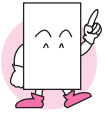
純資産は^{しほん}資本ともいいます。

つまり、集めてきたお金のうち、あとで返さなくてはならないものが負債、返さなくてよいものが純資産（資本）ということになります。

【左側＝借方】	貸借対照表	【右側＝貸方】
	負債 	←増えるとイヤなもの
	純資産 	←元手 (返さなくてよい)
か  かた	か  かた	

貸借対照表の左側（借方）は資産

貸借対照表の左側は、集めてきたお金の使い途（運用形態）を表します。現金で残っているのなら現金、土地を買ったなら土地です。これらを**資産**といいます。



現金も土地も増えたらうれしいですね。
ですから、増えたらうれしいものが資産です。






貸借対照表

【左側＝借方】

貸借対照表

【右側＝貸方】

 資 産 ↑ 増えたら うれしいもの	負 債  純資産 
--	--

か ↓ かた

か ↓ かた

← 増えたら
イヤなもの

← 元手
(返さなくて
よい)

勘定科目とは？

簿記では、紙幣や硬貨を**現金**、ビルやマンションを**建物**、机やイスを**備品**といいます。これらの現金、建物、備品などを**勘定科目**といいます。

資産、負債、純資産の勘定科目には次のようなものがあります。

●資産の勘定科目●

現 金	紙幣や硬貨など
材 料	木材、セメント、鉄骨など
建 物	自社で使っているビルなど（販売用のものは除く）
備 品	机、イス、コンピュータなどの事務用品
完成工事未収入金	完成して引き渡した工事代金の未収額（あとで代金をもらえる権利）
貸 付 金	貸したお金をあとで返してもらえる権利

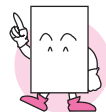


増えたらうれしいものです。段々と学習していくので、今の時点で勘定科目をおぼえる必要はありません。

●負債の勘定科目●

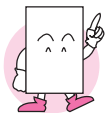
工 事 未 払 金	工事費用の代金の未払額（あとで代金を支払わなければならない義務）
借 入 金	借りたお金をあとで返さなければならない義務

負債は返さなければなりません。



●純資産の勘定科目●

資 本 金	元手や利益など、会社が自由に使えるお金
-------	---------------------



返す必要がありません。

≡ 貸借対照表のルール

貸借対照表は必ず右側と左側の金額の合計が一致します。また、純資産は資産から負債を引いて計算します。

$$\text{資産} - \text{負債} = \text{純資産（資本）}$$

貸借対照表の形

貸借対照表の正式な形は次のとおりです。

貸 借 対 照 表					
〇〇工務店		× 1 年 12 月 31 日		(単位：円)	
資	産	金 額	負債・純資産	金 額	
借 方	現 金	240	工 事 未 払 金	230	貸 方
	完成工事未収入金	400	借 入 金	270	
	建 物	310	資 本 金	450	
		950		950	

借方合計と貸方合計（貸借合計）は必ず一致



1 借方と貸方はどっちが右？

2 貸借対照表の右と左には“なに”がある？

3 貸借対照表のルールは？